

団体名		公益財団法人 武蔵野文化事業団						
事業	① 指標名	これまでの文化事業団実施事業のアーカイブ化			目標値	アーカイブの完成（公開）	実績値	アーカイブを完成させ、公開した
	過去の実績	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	100.0%	達成状況	達成
	(単位:)	-	-	-				
	取組内容	昭和59年の事業団創設以来おこなってきた事業を年度ごとに一覧化。また、事業団ゆかりの海老澤敏（市民文化会館名誉館長）、藤原真理（長年、市民文化会館に定期的に出演するチェロ奏者）、春風亭昇太（第1回「武蔵野寄席」に出演し、その後の同シリーズにも度々出演していた落語家）、安田由貴子・石井久美子（「武蔵野シティバレエ」第1回からの実行委員）、林喜代種（長年に渡り事業団の事業を記録してきた写真家）、大西隆（公演時にハワイエでCD販売を担当するミュージックショップ経営者）へのインタビューやエッセイの執筆依頼も行った。美術館、シアターでは、展覧会や公演チラシの画像もまとめた。それらを『公益財団法人武蔵野文化事業団 事業記録 1984-2022』『武蔵野市立吉祥寺美術館 事業記録 2002-2022』『吉祥寺シアター 事業記録 2005-2022』の3分冊の形で発行した。あわせて、新法人・武蔵野文化生涯学習事業団ホームページにも掲載されるよう準備を進めた（現在公開中）。						
	一次評価	当初の目標どおり、法人としては消滅することとなった文化事業団の37年間の足跡をまとめ、冊子とホームページの形で公開することができた。過去の事業の変遷を振り返るとともに、これまで蓄積してきた経験を新法人での事業展開にも役立てていく。						
二次評価	（公財）武蔵野生涯学習振興事業団との合併により、（公財）武蔵野文化事業団が法人として消滅する中において、その長き歴史を記録として残すことは、これまで培ってきた芸術文化の取組みを将来へ継承していくものであり、その取組みを評価する。これまでの経験を生かしつつ、合併によるメリットを有効活用し、さらなる芸術文化の発展に寄与することに期待したい。							
財務	② 指標名	コロナ禍における事業の着実な実施と収入の確保			目標値	入場料収益予算額 20,559,000円を達成するとともに、その5%以上を外部補助金等として獲得する。	実績値	入場料収入：22,502,910円 外部補助金：5,491,159円
	過去の実績	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	100.0%	達成状況	達成
	(単位:)	-	-	-				
	取組内容	コロナ禍において、客席数の制限や海外アーティストの渡航制限などがあったが、国内アーティストによる公演開催や魅力的な公演の企画、契約条件の再整備、SNSと連動した広報、WEB動画の活用などの取組みにより一定の公演開催を維持し、入場料収入の確保を図るとともに、外部補助金の獲得に努め、より廉価での鑑賞の機会を確保し、芸術文化事業の継続の安定化を図った。このほかにも、有料動画配信（10本、視聴料収入230,260円）、地域応援券への参加（141枚の利用、70,500円）などで、市民が芸術文化に触れる機会と収入の増を図る試みを行った。						
	一次評価	コロナ禍においても目標とした入場料収入と外部補助金を得ることができた。有料動画は、企画した令和2年度時点と比べ、社会的にも動画への需要が減り、想定していたほどの視聴は得られなかったが、市民が新しい形で芸術文化に触れる機会増に貢献することができた。また、地域応援券への参加を通じて、市民の芸術文化事業への参加を促すことにもつながられた。						
二次評価	新型コロナウイルス感染症の影響下において、入場料収入と外部補助金獲得の目標を達成したことを評価する。コロナ禍において、客席制限等が行われる中で、SNSと連動した広報やWeb動画を活用した取組みなど、様々な工夫をして収入確保に努めた結果である。引き続き、社会変化の状況に応じた芸術文化事業への取組みを進めていただきたい。							
内部	③ 指標名	新法人としての事務継続に向けた過去の資料整理と文書及びデータのファイリング実施体制の整備			目標値	年度内にデータと紙のファイリングを実施する体制を整備する。	実績値	管理課総務係が保存している電子データを一定程度整理することができた
	過去の実績	平成30年度	令和元年度	令和2年度	達成率	50.0%	達成状況	未達成
	(単位:)	-	-	-				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、必要なフォルダの枠組み案を作成し、職員からの意見を参考に修正。 ・作成した枠組みに基づいて、期限を決めて担当者がデータファイルを保存。 ・不要と考えられるファイルを「ごみ箱」フォルダに保存。1年後に削除予定。 						
	一次評価	未整理で散在している状態であったデータフォルダを、一定程度整理することができ、事務効率の向上に効果があった。合わせて紙ファイルも整理する予定であったが、合併準備等の事務に追われ、紙ファイルの整理は完成しなかった。今後、合併後の新法人としてのルールを設定し、さらにファイリングの整理を進めていく予定。						
二次評価	データの整理等を行うことは、業務改善やリスクマネジメントの観点からも重要な取組みである。合併後のルールを事業団の中でしっかりと共有したうえで、早急にデータ等の整理が行えるよう努めていただきたい。							